

◎共生社会の実現に向けて

1. 心のバリアフリー

「心のバリアフリー」とは、様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うことです(「ユニバーサルデザイン2020 行動計画(2017年2月ユニバーサルデザイン2020 関係閣僚会議決定)」より)。

そのためには、一人一人が具体的な行動を起こし継続することが必要です。各人がこの「心のバリアフリー」を体現するためのポイントは、「ユニバーサルデザイン2020 行動計画」では、以下の3点とされています。

- (1)障害のある人への社会的障壁を取り除くのは社会の責務であるという「障害の社会モデル」を理解すること。
- (2)障害のある人(及びその家族)への差別(不当な差別的取扱い及び合理的配慮の不提供)を行わないよう徹底すること。
- (3)自分とは異なる条件を持つ多様な他者とコミュニケーションを取る力を養い、すべての人が抱える困難や痛みを想像し共感する力を培うこと。

2. 障害の社会モデル

「障害の社会モデル」とは、「障害」は個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって創り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である、とする考え方です(「ユニバーサルデザイン2020 行動計画」より)。

「ユニバーサルデザイン2020 行動計画」では、「障害の社会モデル」をすべての人が理解し、それを自らの意識に反映させ、具体的な行動を変えていくことで、社会全体の人々の心の在り方を変えていくことが重要であり、また、この「障害の社会モデル」の考え方を反映させ、誰もが安全で快適に移動できるユニバーサルデザインの街づくりを強力に推進していく必要がある、とされています。

3. バリアフリー教室を実施する趣旨、目的

高齢者や障害者などの自立と社会参加の要請へ適切に対応し、高齢者や障害者などが公共交通機関を円滑に利用できるようにするため、社会全体での施設整備(ハード面の施策)に加え、実際に高齢者や障害者への手助けをしやすい環境づくり(ソフト面の施策)を進めることも必要です。

このソフト面の施策のひとつとして「バリアフリー教室」の実施が挙げられます。これにご参加いただくことにより、高齢者や障害者などの実生活での困難にまつわる体験談を傾聴するとともに、これらの方々に対する介助体験を通して、バリアフリーについて理解を深め、福祉・ボランティアに関する意識を醸成し、国民一人ひとりが、高齢者や障害者などに対して自然に快く手助けできる「心のバリアフリー」社会の実現を目指します。

4. 中部運輸局管内バリアフリー教室の実施状況

開催日程： 令和6年8月6日(火)
開催場所： 瀬戸市社会福祉保健センター(やすらぎ会館)
主 催： 中部運輸局
協 力： 社会福祉法人瀬戸市社会福祉協議会、
独立行政法人自動車事故対策機構(NASVA)、
名鉄バス株式会社
参 加 者： 小学4年生から中学3年生 20名

独立行政法人自動車事故対策機構(NASVA)や視覚障害者の方からの講話いただき、車いすやアイマスクを使って低床バスの乗車体験・バリアフリークイズを実施しました。

参加した学生からは、「実際に体験して困っている事が分かった。もし見かけたらお手伝いをしたいと思いました」という感想もあり、体験を終えて、バリアフリーの心が芽生えているようでした。

NASVA の職員からの講話



バリアフリークイズ

視覚障害者の方の講話



低床バスの乗降体験



開催日程：令和6年10月24日(木)
開催場所：三島市立東小学校(静岡県)
主催：中部運輸局静岡運輸支局
協力：社会福祉法人三島市社会福祉協議会
株式会社東海バス、三島市
参加者：小学4年生 58名

視覚障がい者の方から講話をいただいた後、各グループに分かれて、体育館に設置したコースをまわる車いす体験、低床バスを使った、車椅子の人が乗降するためのスロープの使用や乗車後の車椅子の固定などの体験、バリアフリークイズなどに取り組みました。初めて経験した事ばかりで、驚いたり対応に困ったりしている様子が見られましたが、前向きに学び考えようとする積極的な姿勢を見ることができました。

視覚障がいの方の講話



車いす体験



低床バスの乗降体験



バリアフリークイズ



開催日程：令和6年11月7日(木)

開催場所：坂井市立兵庫小学校(福井県)

主催：中部運輸局

協力：社会福祉法人坂井市社会福祉協議会、
京福バス株式会社

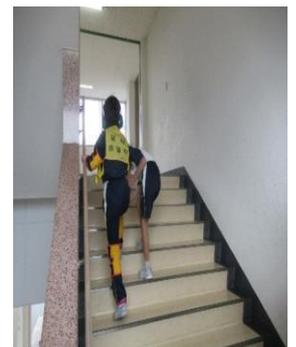
参加者：小学4年生 15名

下肢障がいの方から講話をいただいた後、各グループに分かれて、シニア体験、体育館に設置したコースを車椅子介助でまわる車いす体験、低床バスを使用した車椅子乗降体験に取り組みました。

下肢障がいの方の講話



シニア体験



- ・見えにくくなるゴーグル
 - ・手首と足首におもり
 - ・肘と膝に「曲がりにくくなるサポーター」
- を付けて階段を上ってみたり、小銭をお財布から出してみたりしました。

車いす体験



低床バスの乗降体験



開催日程：令和6年11月8日(金)

開催場所：坂井市立加戸小学校(福井県)

主催：中部運輸局

協力：社会福祉法人坂井市社会福祉協議会、
京福バス株式会社

参加者：小学4年生 21名

下肢障がいの方からの講話をいただいた後、各グループに分かれて、視覚障害体験、車椅子体験、ノンステップバス乗降体験に取り組みました。

下肢障がいの方の講話



視覚障害体験(目をつむって体験)



目隠しをした状態で自分の名前を書く疑似体験を行いました。

ノンステップバスの乗降体験



車椅子体験



開催日程：令和6年12月13日(金)

開催場所：名古屋市立本地丘小学校(愛知県)

主催：中部運輸局

協力：社会福祉法人名古屋市守山区社会福祉協議会、名鉄バス株式会社

参加者：小学5年生 9名

まず、各グループに分かれて、体育館に設置した視覚障害体験コースを介助者・体験者を交代しながら歩いたあと、階段に移動し、視覚障がいの方に実際に降りたり登ったりする様子を実演してもらい、それぞれが交代しながら目をつむって階段の上り下りを体験しました。その後、視覚障がいの方に普段の生活の様子などをお話していただき、じゃがいもの皮むきの様子なども見せていただきました。盲導犬についての説明もしてもらい、子ども達からは「当事者の方々の苦労や工夫がよく分かった」「盲導犬の役割がよくわかった。」「お仕事中は触ったり餌をあげたりしてはいけないことがわかった」「点字ブロックが2種類あるのは初めて知った」といった感想がありました。

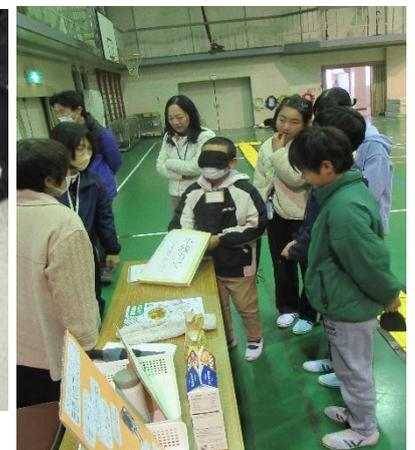
視覚障害体験



ノンステップバスの乗降体験



目隠しをした状態で、小銭の金額を当てる体験をしました。

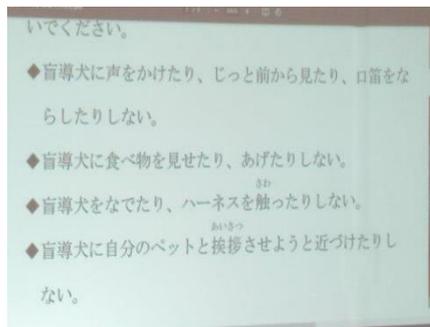


視覚障がいの方の講話



ジャガイモの皮むき実演

盲導犬のお仕事中の注意点



↑
ハーネスを外している時はオフタイム